

朝の礼拝

聖書 マルコによる福音書 1 章 21-28 節 (新約聖書 61 頁)

一行はカファルナウムに着いた。そして安息日にすぐ、イエスは会堂に入って教えられた。人々はその教えに驚いた。律法学者のようにではなく、権威ある者のようにお教えになったからである。するとすぐに、この会堂に汚れた霊に取りつかれた男がいて叫んだ。「ナザレのイエス、構わないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ。」イエスが、「黙れ、この人から出て行け」とお叱りになると、汚れた霊はその男に痙攣を起こさせ、大声を上げて出て行った。人々は皆驚いて、論じ合った。「これは一体何事だ。権威ある新しい教えだ。この人が汚れた霊に命じると、その言うことを聞く。」こうして、イエスの評判は、たちまちガリラヤ地方の隅々にまで広まった。

あなたのせいではない

古代は善悪や根拠なしに、病や障害は悪霊が外から入りうつると信じていました。さらにイエスの時代のユダヤ人の指導者、律法学者は神の教えを守らない者は神の罰を受けた汚れた者、罪人だと、その人自身の人格、存在そのものを否定していました。

ですから病や障害を持つ人は悪霊信仰とユダヤ教の律法主義から二重の苦しみを負っていたのです。律法学者は病の痛みよりも律法を守ることが大切でした。本来、律法は人を救うはずなのに、病にある人を追い詰め、苦しみを増すものにしてしまったのです。

しかしイエスは病や障害を持つ人を問題にするどころか、その人の存在そのものを受け入れ、逆にその原因を汚れた霊の働きとして、その人とは関係がないとして、その人と病の問題を分けて考えています。そうして彼らの二重の痛みを取り除いているのです。

病や障害だけでなく、自分の個性や特性も自分で操作することも、直すことも、拒むこともできません。自分自身ではどうすることもできません。でもイエスはあなたの苦しみ、痛みを自分のこととして受けとめ、あなたのせいではないと宣言しているのです。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたの深い憐れみによって赦され、生かされている恵みに感謝します。あなたは何も言わなくても、わたしという存在を見つめ認めておられます。どうかあなたへの信頼を深め、生かされている喜びに与らせてください。特に今、病にある方々を覚えて祈ります。どうかひとときでも早く共に感謝を献げる日を迎えることができますようにお守りください。そして英和生はこれまでの学びをふり返る時となりました。よきふり返りと、学び続ける喜びを与えてください。今日一日も、すべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン